

鈴木ひとみ市政報告



鈴木ひとみ



ごあいさつ

明けましておめでとうございます。令和4年は戦争やコロナに振り回された年でした。各地で大きな自然災害も起きました。今年はそれらが治まって穏やかな年になることを心から願います。このお正月、市内の宿泊施設は観光客でいっぱい。久しぶりに帰省した人たちも多く、賑わいを取り戻したように思えました。東京から程よい距離にあって自然豊かで暖かなこの土地の魅力を発信しつつ、暮らしやすい街づくりを進めていきたいと思います。

令和4年12月市議会定例会 一般通告質問より

「館山を離れた若い人」が戻ってくるために ～ここで暮らして働きたいと思えるまちに～

森新市長の選挙公約の一番がこの課題でした。館山で育った子どもたちの多くは就職や進学のために市外へ出ていきます。若い人たちが一度は故郷を離れて自立することは良い事です。市外へ出て、知識を広め、多くの経験をして成長する。夢を求めて羽ばたいていくことは、応援したいと思います。

その上で、やはり故郷へ戻りたいと思えるまち、ほかの土地で育った若者がここで暮らしたいと思えるまちを作っていきたいと考えます。

まず、一番の魅力である自然を守り、子育て環境、公共交通を充実すること。移住したい人を快く迎え入れ、起業したい人を応援する体制の整備が必要です。市内の多くの産業で高齢化が進み、慢性的な人手不足に陥っています。若い人たちを迎え入れるにはどうすれ

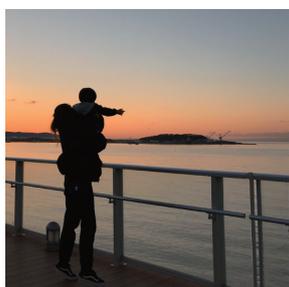


ばよいか考えてみませんか。

コロナ禍で生産拠点を国内に戻す企業もあります。それらの企業を誘致するためには、水とエネルギーの供給が大切です。特に、再生可能エネルギーを地元で供給できることはとても有利な条件になります。太陽、風、波のエネルギーを活用することが今後の課題です。

子育てについて

～ここで子育てしたいと思えるまちに～



全国的には当たり前の3歳児の幼稚園枠が館山市の公立幼稚園、こども園にはありません。「家庭での保育に欠ける」という条件に当てはまらない3歳児は、市内に唯一の私立幼稚園でしか教育を受けることが出来ません。

核家族化が進む中、集団の生活で様々な体験をして成長することは子どもにとって大切です。どの子ども希望すれば幼児教育を受けられる環境の整備は早急になされるべきです。

また、多くの自治体が家事支援、育児支援を充実させることで若い世代を呼び込もうとしています。この点に目を向けていかないと、益々少子高齢化が進みます。定員割れが続いている幼稚園の統廃合により、保育士の余裕を作れば、こども園、保育園が在宅育児の支援を行うことも可能です。